さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

問1

ブドウ栽培を支援するロボットの名前を答えてください。

.....

問2

コンソーシアムが、ロボットを開発している目的を、2つ答えてください。

・.....

・.....

問3

小学生が考案したロボットの名前には、どのような意味が込められていますか。

.....

.....

問4

農業にロボットを活用するよさを考えて答えてください。

.....

.....

.....



命名されたロボット「かいてきまる」＝山梨市牧丘町倉科

ブドウ栽培支援ロボ 命名「かいてきまる」

山梨大や県など 糖度測定や収穫 実演

峡東

山本 就己
武田 寛明

山梨大や県、県内企業などで構成するコンソーシアムは、開発を進めている人工知能（ＡＩ）を活用したブドウ栽培を支援するロボットの名称を「かいてきまる」と命名した。名称の発表に合わせ、山梨市牧丘町倉科のほ場でロボットによるブドウの糖度測定や収穫を実演した。

コンソーシアムは生産拡大や農家の負担軽減を目的に、ブドウの摘粒や収穫などの作業を支援するロボットの開発を進めていて、２０３０年度の社会実装を目指している。

ロボットの名称は山梨市内の児童生徒を対象に募集。加納岩小の児童が考案した「かいてきまる」が選ばれた。県域の旧国名「甲斐」や「快適」、ロボットが支援する作業の「摘粒」と、ブドウの粒の形「丸」などの意味が込められているという。

２日にほ場で、関係者に向けてロボットの実演を行った。アームに付けたカメラなどを利用して房の位置を捉え、他の房に当たらないようにアームを移動させながら、房の３カ所に光を当てて糖度を計測した。収穫では、風などで揺れるブドウの位置を捕捉して房を切り取ったり、かごの空きスペースを判断したりする様子を公開した。

開発を進めている山梨大工学部の茅暁陽教授は「実用化には今後の実証が必要だが、かなり近いところまで来ている。生産者のために（実証上の）課題を乗り越えていきたい」と話した。〈武田寛明〉

（2026 年 10 月 21 日付 山梨日日新聞 16 面）

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2026 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.